

## (12) 葦神社 (あしじんじゃ)

三重県伊賀市上阿波 2665  
TEL: 0595-42-1755

訪問日: 2014年5月1日

式内社 伊賀國山田郡 葦神社 旧村社

主祭神: 大國主神

祭神: 事代主神 市杵嶋姫命、田心姫神、湍津姫命、天日方命、奇日方命、  
天手力男命、少名毘古那命、布都御魂神、神功皇后 合祀; 日  
本武尊、火産靈神、伊古那姫神、猿田毘古神、伊邪那岐神、健速須佐之  
男神、菅原道眞、地主神、帶中日子神、品陀和氣命、高良玉垂命、  
大雀命、宇迦能御魂命、大日靈貴尊、奥津日子神、天穗日命



鳥居と拝殿



手水舎



御神木のスギ

由緒: 孝霊天皇3年創立、天曆3年(949)現社地に社殿をつくり、天正9年(1581)天正伊賀の乱で焼失、慶長18年(1613)12月20日再建遷宮、宝暦年中に社號を旧に復して葦神社粟皇神別府宮、明治4年7月村社に列し、葦神社と改称竜王嶽の南麓にあつて、服部川の北岸に鎮座している。社伝によると、孝霊天皇3年、現地の東5Kmにある伊勢伊賀境の黒岩峯(655m)に顕現し、三船明神と相殿となっていた。垂仁天皇33年、鮫ヶ原三女垣内に遷座し粟皇神淡護明神と称した。神功皇后三韓征伐の後、高良命が勅命により、宮を三所に分け大國主神・事代主神を芦谷へ葦神社として祀り、天日方命・奇日方命を別府宮として祀り、市杵嶋姫命・田心姫神・湍津姫命を粟皇神として三女垣内に祀った。承平7年(937)大地震で三社とも社殿破損のため、天曆3年(949)、現社地に三社を合祀し葦神社七王子淡護大明神と称した。天和年中、葦神社八王子淡護大明神となり、宝暦年中、三所の旧号を合わせて、葦神社粟皇神別府宮と称した。明治4年7月、村社に列し、葦神社と改称。別当寺は大字猿野の慶正寺、上阿波の本願寺であつたが慶正寺は廢寺となつた。

明神造りの石の鳥居をくぐって、境内に入ると、左手に手水舎がある。真っ直ぐ進むと同じ造りの鳥居と石灯籠が2基立っており、その後続く石段を登ると、阿吽の狛犬に守られた破風のある平入り造りの拝殿があり、その奥に鯉木が6本のった神明造りの本殿がある。その他境内には社務所・宝物庫・參籠舎・祭器庫がある。石段の右側に御神木のスギの大木があり、その他サカキ、ヤブツバキ、シロダモ、シラカシ、スタジイ、イロハモミジ、タケ、シラカシ、ホオノキ、ヤブニッケイ、タブノキなどがみられる。例祭は5月5日で、その他年中恒例祭が12回行われる。